

第88回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成22年2月3日(水) 17:37~18:15

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	平野 博文	内閣官房長官
同	川端 達夫	科学技術政策担当大臣・文部科学大臣
同	原口 一博	総務大臣
同	菅 直人	財務大臣
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	相澤 益男	元東京工業大学学長
同	本庶 佑	京都大学客員教授
同	奥村 直樹	元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長
同	白石 隆	元政策研究大学院大学教授・副学長
同	今榮東洋子	名古屋大学名誉教授
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
同	中鉢 良治	ソニー株式会社取締役代表執行役副会長
同	金澤 一郎	日本学術会議会長
臨時議員	仙谷 由人	国家戦略担当大臣
同	小沢 鋭仁	環境大臣
同	赤松 広隆	農林水産大臣(代理 郡司 彰 副大臣)

(議事次第)

1. 開会

2. 議事

(1) 最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針(決定)

(2) 科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について (報告、了承)

(3) その他

3 . 配布資料

- 資料 1 - 1 最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針 (案) (概要)
- 資料 1 - 2 最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針 (案)
- 資料 1 - 3 参考 最先端・次世代研究開発支援プログラム
- 資料 2 - 1 科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について (概要)
- 資料 2 - 2 科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について
- 資料 3 平成22年度科学・技術関係予算案の概要について
- 資料 4 平成22年度の科学技術振興調整費の配分の基本的考え方
- 資料 5 第87回総合科学技術会議議事録 (案)

「最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針 (案) 」について関係大臣との調整を踏まえた上で、本方針の取り扱いを総理と科学技術政策担当大臣に一任することを決定し、「科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について」了承された。

冒頭、議長挨拶

【鳩山議長 (内閣総理大臣) 】

今日のテーマは大きく二つ。若手研究者、女性研究者に対する支援の新たなプログラムが一つ。もう一つは、総合科学技術会議には、今まで以上に大きな役割をぜひ演じていただきたいと考えているが、科学・技術予算にかかる新たな取組について議論をいただきたいと思っている。

昨年末に新たな成長戦略の基本方針を打ち出した。ピンチをチャンスに変え、そこに成長がある、ということで、例えば、いわゆる高齢化、これはむしろ健康長寿だととらえ、いわゆるライフ・イノベーションをつくり出していくことによって、科学・技術力で日本を成長に導いていくというシナリオをつくりたい。もう一つは環境問題、これもネガティブに考えるのではなく、ポジティブに考え、グリーン・イノベーションという発想で、環境によって新たな成長

を世界の中で牽引していくことを考えていきたいと思っており、一つの方向性を打ち出した。先生方、議員の皆さん方に有意義な議論をしていただきたい。いかにして科学・技術をさらに発展させていくかということで、ぜひとも知恵を絞っていただきたいと思い、お集まりをいただいた次第である。

議題（１）、（２）に関する各議員の発言は以下のとおり。

【平野議員】

一番の前提のところだが、今先生のほうから支援プログラムの運用基本方針をご説明いただいた。この中で、これはこういうスキームでやられるということだが、これは懸念だが、例えば日本学術振興会というところが、公募、審査という部分を担う仕組みになっている。一つのプログラムとして。

これは政府の立場からみると、行政刷新の対象組織にしており、考え方のスキームとしては良いが、この組織は本当に要るのか、要らないのかという対象組織にしてあり、余りここが固定化されていくと、非常に難しいかなということ。担当の仙谷大臣、どうお考えかわからないが、そういうイメージを持っている。

【仙谷議員】

私も、この運用基本方針の２ページの３の（１）の の表現を拝見すると、公募及び審査並びに運営会議における検討を経て、総合科学技術会議が決定するということになっているわけだが、ここは一手販売というか、日本学術振興会が完全に公募と審査を握ってしまうという話になっている。

実は昨年補正予算の巨額な科学研究費の使い方、配分の仕方についても、これは私は素人なので、どなたが言っていることが正しいのか知らないが、随分あの後異論が出て来て、こんなものやっただけ箱物にしか使わないぞとか、そういう一体全体どういう審査がどのような形でやられているのか、特に独法ということになると、私ども行政刷新の立場からは、これは一遍、それこそ仕分け手法で世の中への透明度を高くしないと、今の若手研究者とかいろいろな研究をされている人にとって不満が残るといえる。何であれが選ばれて、こういう優秀な若い人が選ばれないのかというような話が、相当この間来ており、どこか病んでいる部分があるの

かなと、あるいは病んでいるかどうかわからないけれども、再点検しなければいけないところがあるのかなという感じている。

この独法日本学術振興会というところのある種の独占というか、専権的な、こういうやり方で果たしていいのかどうかということをご検討いただきたい。

【本席議員】

ただいまのご懸念だが、実は前の最先端のいわゆる3,000億からスタートしたものは学術振興会ではない。選考したのは、政治的トップダウンで定められた支援会議でやり、学術振興会は単にお金を配る役だけを担った。

今回、こういう形で公募、審査を依頼したほうがいいという考えは、現在、文科省から出ている我が国の一般的な基礎研究のファンドである科学研究費補助金2,000億円を、全国の5万名ぐらいの研究者に毎年配分しているのが学術振興会だからである。その仕組みは、我が国が持っている数十ある競争的資金の中で最も公正で透明性が高いと、これは全国の研究者が一致して言っていることであり、その仕組みを活用していきたいということ。実際に審査に当たるのは全国の大学、独法等々の研究者が集まって、数千名のリストの中から審査員を選び、実施するので、私どもとしては、今日本で考えられる最も透明性の高いやり方であろうと考えている。

【仙谷議員】

これ従来からそうなのか。この振興会を使っているわけ。

【本席議員】

然り。

【仙谷議員】

これは従来からそうなのか。この日本学術振興会を使っているのか。

【相澤議員】

学術振興会に今回委託しようとしているのは、例えば今回の公募を行ったときに1,000件とか数多くの応募が想定されるので、そのスクリーニング段階に相当するピアレビュー、これだ

けを委託する。最終的にそのピアレビューによる結果をもとにして総合科学技術会議の政務三役及び有識者議員の会がその選定に当たる。

もう一つ。学術振興会は法律に基づいて、プログラムの財源である先端研究助成基金を管理している。その資金を学術振興会が意図どおりに使うとか、そういうことは全くできないわけで、ただ単なる資金の管理である。資金の管理は法律に基づいて行われていることと、選考に係っては、選考の最終結果を出すためのピアレビューを学術振興会で行うと、こういう二段構えとなっている。

【原口議員】

私たちはいわゆる独法についてのレビューを今やっており、独法は基本的に原則廃止という形に持っていこうとしている中で、日本学術振興会、これは特別なものだと思うが、そここの論理構成はしっかりしておかないといけないというのが一点目。

議事2についても一言、総務大臣の立場からお願いしたいのは、科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について。極めてここは大事だと思っており、23年度科学・技術関係予算を新たな科学技術基本計画のキックオフである重要な位置づけのものだと思うが、アクション・プランでは課題解決型の研究開発のみではなく、それらを支える基盤、基幹技術についてもきちんと位置づけていただきたいというのが一点目。特に、ICT、情報通信技術の利活用は、これはもう今まではICT技術というので独立していたが、今はICTと環境、ICTと医療、ICTと介護、あるいはICT教育、エネルギーという形で、新たなイノベーションを生む基盤であって、アクション・プランの中でもぜひここは重要なポジションを占めるものだと認識しているので、この位置づけをお願いしたい。

日本を、将来を担うヒューマンバリューへの投資も極めて重要だと思っており、このICTの利活用、ヒューマンバリューへの投資といった重要課題について、このアクション・プランに明確に位置づけていただくようお願い申し上げます。

総務省では、もう現に原口ビジョンを実現に向けてICT政策のタスクフォースを四つ立ち上げて、環境・医療問題、地球的課題の解決等に向けた検討を進めており、その検討結果も積極的にインプットさせていただきたいと思うので、科学関係予算の編成に貢献してまいりたいと思う。ぜひその位置づけを明確にさせていただきたい。

【相澤議員】

先ほどご説明したように、科学・技術政策の当面の重要課題というものを出すが、その中には今ご指摘のような内容がすべて含まれるということがまず前提。実は、その重要課題全部についてアクション・プランを作りたいが、今年は二つないし三つぐらいのところを対応するのがいろいろな意味から限度ではないかということで、先行的に行う例としてということ。4月上旬に決定する資源配分方針の基本指針には今のご指摘のような横断的な基幹技術など全てが盛り込まれてくるということである。

【原口議員】

ぜひICT技術の利活用とそれからヒューマンバリューへの投資、これはやはり鳩山内閣の一番大きな柱だと思うので。

【相澤議員】

グリーン・イノベーションの中にも、ライフ・イノベーションの中にもICTの活用を盛り込ませていただいている。

【奥村議員】

アクション・プランについて、技術の流れのほうからこの効果について一言触れさせていただきたい。

既にご案内のように、日本の中で民生技術もそうであり、いわゆる技術がどんどん高度化していく過程はさまざまな科学知見、技術知見を組み合わせることで高度化を達成するという極めて大きな流れがある。直近で言えば、日本でもようやく医療ロボットが認可されたようだが、医学とそれからメカトロニクスとの融合で初めて形になるということで、これを各府省の方から、予算要求する原課の方から見ると、自分の担当する所掌の事務事業の関係する技術スペクトルは昔に比べて非常に広がっているということだろうと思う。

したがって、各府省の要素技術、関係する技術をパッケージにすることは最終的に形にするという方向性だと思う。既に研究の現場では、いわゆる研究者のネットワークを作りなさいとか、大学間をもう少しお互いに連携してやりなさいという施策は進めてきているが、そういったテーマの上流側にある施策、ここをパッケージにすればより強くなる、そういう意味合いもこのアクション・プランの中には込められていると私は理解している。

【川端議員】

特に議題2の科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について、いろいろご意見もいただいた。これは今までにない予算編成の過程の取組であるが、総理からご意見を。

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

お話をいただく中で、総合科学技術会議から科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組について、今のような報告があったことは、一つは科学・技術の予算の質を高めるということと、もう一つは透明性を高めるという二つの目的があるかと思っている。

この二つの目的を果たすために大変有効だと思っており、予算編成のあり方を前進させるという意味でも画期的な話ではないかと、そのように評価したい。

こういったアクション・プランの新しい取組をこれから国民の皆さんの声も聞きながら進めていく、それから各府省の協力のもとで実施するということが大変新しい話だと思っており、さっき申し上げたように画期的ではないかと思っている。

したがって、この取組を前に進めていくためには、まさに今お話があったように財務大臣を初め、各大臣が積極的に取り組んでいただくということが何より求められているものなので、各大臣におかれては、先ほど原口大臣もある意味でライフ・イノベーション、グリーン・イノベーションという縦串に対して、ICT横串で刺していくというこの重要性のご指摘もあったわけだが、積極的に取り組んでいただきたいと期待をいたすところである。

【菅議員】

前任者ということもあるが、今も総理からお話があったので十分だと思うが、従来はいわゆる概算要求が出た後にいろいろ優先度判定をしていただいて、必ずしもそれがフィードバックする仕組みが十分でなかったように思っていたので、今回こういう形で総合科学技術会議の考え方が、予算編成に要求の段階できちんと反映されるということは良いことではないかなと私も思っている。

【川端議員】

ありがとうございます。

それでは、議題1に戻り、議題1も先ほどいろいろな仙谷大臣からご指摘もあったが、最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針の決定を行いたいと思うが、先ほどのいろい

るな意見も踏まえながら、この仕組みでやるということで決定してよろしいか。

【直嶋議員】

例えば、今話のあったように独法の見直し等、これから進めていくので、そういう前提で例えば当面ここを活用するとか、状況によっては見直し作業との関係で変化もあり得るという、そういうところを前提条件として確認しておかないと。

【仙谷議員】

ここで決定されるとすれば、作業日程としてはどうなるのか。公募審査、そのピアレビューの関係等。つまりそこだけ再検討、あるいは再構築を既成のものを使うかどうかということも含めて、改めて透明度を高くするために、どういうピアレビュー、公募審査をやるのかということについて、再構築する時間的余裕があるのであれば、それはこのところだけ留保してお決めいただいた方がいいのではないかと私は思う。

【川端議員】

いろいろな意見も出た。そして、基本的に独法のいろいろな動きがあることも現実だが、最終決定機関は政務三役を含めた仕組みの粗々のスクリーニングをするという機能でもあるが、いろいろな意見を踏まえて取り扱いと修正については議長である総理と私にご一任いただきお預けいただくということで、関係各省とはまたいろいろ相談をさせていただくが、そういう形でお決めいただくことでよろしいか。

ありがとうございました。

それでは決定をさせていただく。

次に、議題2の「科学・技術関係予算の重点化・効率化に向けた取組」について、報告なので、本会議として了承することにしたいと思うが、よろしいか。

ありがとうございます。

それでは、本案の内容のとおり進めていきたい。

それでは、ここでプレスに入ってください、総理の最後のご発言をいただきたい。

(報道関係者入室)

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

今、アクション・プランをお認めいただいた。これは予算編成のあり方を変えるという意味で大変画期的な話だと思っている。

総合科学技術会議も今まで、ある意味で受動的な部分があったのかもしれないが、これからはむしろ能動的に大きな役割を、更に担っていただくということになるので、ぜひ頑張りたい。

私どもが昨年末に策定したグリーン・イノベーション、あるいはライフ・イノベーションという二つの科学・技術を柱にした成長戦略、これに基づいて先ほど原口大臣からICTの活用は大変大きいという話があった。こういうものを核としていきながら、特に若手の研究者、あるいは女性の研究者が大いに頑張っていけるような、そんな日本の科学・技術のあり方をぜひ皆様方がリードしていただきたい、改めて心からそのことを期待したいと思っている。

それぞれの担当の大臣の皆様方にはアクション・プランの策定にあたって、ぜひ積極的にご努力をいただきたい。厳しい経済状況であるが、それだけに皆様方に課せられた大きな任務をご理解いただき、新しく開かれた総合科学技術会議としたい。質も高め、透明性も高めていく。科学・技術予算全体をそのように向けていくために、川端大臣を筆頭に努力することを、みんなで誓い合ってまいりたいと思うので、今後とものご活躍、心から期待したい。

改めてお運びを下さいましたそれぞれの議員の皆さん方に心から感謝申し上げます。

（報道関係者退室）

【川端議員】

なお、報告案件として、前の会議の議事録等々、資料を配付している。

以上で本日の会議を終了いたします。

前回会議の議事録と同様、本日の議事録は公表する。ご了解いただきたい。